アスペクタより南阿蘇を望む

支部だより
第39号
発　行　令和７年３月１日
発行人　表千家同門会熊本県支部
〒860-0046
熊本県熊本市西区横手4-21-50
（楫喜久子方）
電話070-2902-2347

支部、青年部活動の新たな一歩を

表千家同門会熊本県支部
支部長　河村邦比児

夏の酷暑、秋から冬への慌ただしい季節を経ただけに、皆さまには春の訪れをいとおしく感じられているのではないでしょうか。

昨年を振り返りますと何より十一月の支部設立六〇周年、青年部設立四〇周年の記念行事が焦点でした。藤崎八旛宮でのお家元猶有斎千宗左宗匠による献茶のご奉仕は、折から七五三の宮参りの時期と重なり、市民も興味深く見守る光景となりました。

白川公園茶室での濃茶席、熊本市国際交流会館での薄茶席、青年部席はいずれも家元からお褒めの言葉をいただくほど見事でした。副支部長、事務長、青年部長はじめ関係の皆さまの周到な準備と連携の賜と感謝でいっぱいです。豪雨となった十年前の経験から天候に気をもみましたが、ほぼ杞憂に終わりました。

昨年は沖縄支部の六〇周年、山口支部の七〇周年の設立行事に参加させていただきました。そこで共通して感じたのは、いかに皆さまが「おもてなし」の気持ちを大切にされているかということです。沖縄では、例を見ない海の見える茶室で薄茶をいただき、山口では大内家ゆかりの大寧寺での献茶の奉仕、熊本は細川文化を伝える能楽を披露しました。

相手の立場に立つ、相手の気持ちを思いやる「おもてなし」の心は、茶の道特有のものではなく社会生活すべてに通じます。家元が述べられる「一服のお茶のもたらす絆、つながりを大事にする」喜びも共にしました。

六〇年、七〇年の各支部の歴史は、いずれも戦後の混乱から経済成長に向かう時期に始まっています。茶の湯の世界が育む文化がいかに人々に生きる勇気を与えたか。同門会に集われた先人の英知に心から敬意を表します。

その後の歴史がいかに多難であったか試行錯誤の連続だったと思いますが、皆さまでそれを乗り越えて迎えた慶事であります。

「芸術は生活に必要なくても生き延びていくためには必要だ。幸せとは何か、平和とは何か、忙しさにかまけて見落としがちな大切なことを問い直させてくれる」という言葉があります。芸術を茶の道に置き換えていいと思います。日々、続けておられる稽古は、社会を豊かにし、その輪を広げているといえましょう。

設立から支部六〇周年、青年部四〇周年は熊本にとり、新たな時代へ一歩を踏み出す節目となりました。皆さまが健康に留意され、益々茶の道の奥深さを究められることを心からお祈りいたします。

叱寿お祝いの会

とき　令和六年五月二十五日(土)
ところ　国立京都国際会館

「叱寿表彰　お祝いの会に出席して」

西林　素子

お家元より、叱寿のお祝い会のご案内を頂き、ソワソワと待っておりました。

五月二十五日、当日は五月晴れの気持ちの良い日でした。

まず受付を済ませ、池の端で薄茶一服頂き会場へ入りました。会場は国際会議もあるところで、広々と立派なところでした。

お家元の「ここに全国からねずみ年生まれの方々がお集まりです」とのお言葉に、ついつい周りを見廻して心強く感じました。

お家元のお話を聞きながら、ご指導頂いた先生方やお茶の世界で出会った沢山の方々のことを思い出していました。本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

壇上でお家元より、記念の叱寿章と六角香合を頂戴し喜びも一入でした。

これからも、健康に留意してお茶を楽しんでいきたいと思っております。

支部功労者表彰

「心つなぐ一服」

島村　貞女

この度、名誉ある表彰をいただき望外の喜びでございます。偏に皆様のご支援とご協力の賜物と深く感謝しております。

私と茶道との出会いは関西文化教室です。そこで茶の素晴らしさや奥の深さに惹かれました。熊本に帰った後、諏訪先生のご指導の下、更に茶道の魅力の虜になりました。即中斎宗匠の教えの一つである「お茶事の大切さ」が特に心に残っております。それは、正月の茶事や朝茶、夜咄、自宅の庭での月見です。それぞれの趣が楽しみでなりませんでした。

また、青年部西港茶会や地元小学校の茶道クラブなども心に残っております。

これからも、利休七ヶ条の教えや日本の文化である「おもてなし」の心を大切にして、「心つなぐ一服」を続けてまいります。

功労者表彰を受けられた方々

下城　緑様

中熊　妙子様

利休忌茶会

とき　令和六年三月三日(日)
ところ　蓮政寺

利休居士を偲ぶ茶会が開催されました。

舞台の床には、利休居士の座像の掛軸がかけられ、お茶と菜の花が供えられました。

午前に「廻り花」、午後に「茶カフキ」が行われ、茶席は濃茶席と立礼席でした。

教授者講習会

とき　令和六年四月十七日(水)
ところ　熊本市国際交流会館

菅田行芳宗匠のご指導で、熊本県支部と鹿児島県支部合同の教授者講習会が開かれました。

午前の講義は、教本による「床の間、掛物、花入」でした。午後からは、「軸飾り」「花所望」「濃茶」の実技指導がありました。

熊本県三十二名、鹿児島県十二名、他県一名、再受講一名、合計四十六名の参加でした。

資格者講習会

とき　令和六年五月十一日(土)
ところ　県立劇場演劇ホール

初夏の暑い日の開催でした。

岡崎英雄宗匠、渡辺泰一郎先生のご指導で実技「茶通箱」「薄茶」があり、昼休みには呈茶を行いました。午後から、渡辺先生による資料解説がありました。

支部総会・一般講習会

とき　令和六年五月十二日(日)
ところ　県立劇場演劇ホール

本部より岡崎英雄宗匠、渡辺泰一郎先生にお出でいただき総会が開催されました。

壱寿表彰者十一名の紹介の後、同門会熊本県支部に貢献された三名の先生方に支部功労者表彰が授与されました。

その後、令和五年度の事業報告・会計報告、六年度の事業計画・予算等の報告がありました。

一般講習会では、岡崎宗匠による「了々斎の話」があり、午後からは、「濃茶」「後炭」「薄茶（替茶碗）」の実技でした。

昼休みに呈茶を行い、出席の会員の皆さまは喜んでおられました。

第二十回 学校茶道部合同茶会

とき　令和六年八月四日(日)
ところ　白川公園茶室

猛暑の中、第二十回という節目のお茶会が行われました。海月庵での本席、山雲軒での薄茶席、不審菴写しの小間の見学もあり、静かで落ち着きのある充実したお茶席でした。

天然忌茶会

とき　令和六年九月一日(日)
ところ　蓮政寺

表千家中興の祖、七代如心斎宗匠を偲び、天然忌茶会が開催されました。

二階では濃茶席と立礼席が設けられ、三階では七事式の「花寄せ」と「且座」が行われました。参加の皆様方は、お茶席を楽しまれるとともに、熱心に見ておられました。

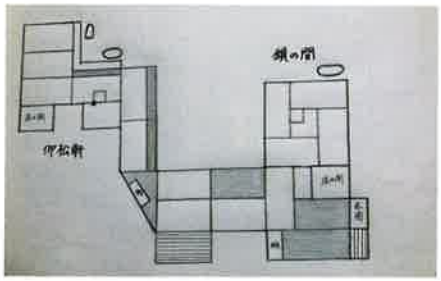
芸術祭参加合同茶会

とき　令和六年十月十四日(月)
ところ　泰勝寺跡・細川邸

芸術祭参加合同茶会が表千家、裏千家、肥後古流の三派で開かれました。

表千家は、久しぶりに仰松軒と鎖の間の両方に濃茶席、梅園に野点席を設けました。

小間のお茶席は、貴重な体験となりました。



第四十六回　古稀御祝茶会

とき　令和七年二月九日(日)
ところ　熊本市国際交流会館

古稀御祝茶会が、古稀を迎えられた七名をご招待し開かれました。

古稀のご招待を受けられた方々

濃茶席・薄茶席・立礼席の三席をまわられ、祝福の「おもてなし」を受けられました。

その後、ホテルキャッスル熊本の祝宴の席に移られ、河村邦比児支部長からお祝いの言葉と共に記念品が贈られました。

緒方　尚美　様
佐藤　浩光　様
髙木　三鈴　様
永松　泰子　様
中村　敦子　様
中山　智子　様
丸山　茂樹　様
（前列右より）

学校訪問

八代東高等学校

とき　令和六年十二月五日(木)

部員は男子一名、女子二名で稽古は毎週木曜日です。

礼法室は、躙(にじ)り口や炉のある小間、違い棚のある広間、広縁、水屋もあり、立派な茶室でした。

入部の動機は、保育園、小学校のクラブ活動でやっていたので、茶道部のある八代東高校を選んだという生徒もいました。

部長に話を聞くと、「お稽古は和やかな雰囲気で、自分たちで茶会のお菓子を選ぶなど、楽しい」「部員が少ないのでもう少し増えればいいと思う」とのことでした。

発表の場は、五月の総合文化祭、八月の学校茶道部合同茶会、十月の校内文化祭、二月の卒業茶会などです。

校長先生も茶道部を温かく見守ってくださっているようでした。

青年部

皆様には、平素より青年部活動へのご理解とご支援を頂き、誠にありがとうございます。

今年の青年部の茶道活動は、新しい形でまた大変精力的に活動をした一年でございました。今年度より青年部総会を支部総会内で開催させていただく事となり、より多くの方に青年部の存在や活動を知ってもらう良い機会になったのではないかと感じております。五月には研修旅行で星野村へ行き、十一月の周年行事で皆様にお出しする抹茶の茶摘み体験を行いました。八月に〝涼〟をテーマとした『涼水（すずみ）の茶会』を開催し、暑い中ではございましたが、多くのお客様にお越しいただきました。そして十一月には、支部設立六十周年と青年部設立四十周年の記念茶会を無事盛会のうちに終える事が出来ました。

今後も青年部一同、先輩方が繋いできて下さった絆を大切にしながら日々精進していく所存でございます。変わらぬご指導とご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2025年度　行事予定

期日		行事内容	会場
2025年	４月24日（木）	教授者講習会	国際交流会館
	５月17日（土）	資格者講習会	県立劇場演劇ホール
	５月18日（日）	支部総会・一般講習会	県立劇場演劇ホール
	５月25日（日）	乭寿お祝いの会	国立京都国際会館
	８月３日（日）	学校茶道部合同茶会	白川公園茶室
	９月７日（日）	支部天然忌茶会	蓮政寺
	９月23日（火）	茶の湯文化にふれる市民講座 講師　千家十職　表具師 奥村吉兵衛氏	国際交流会館
	10月13日（月）	芸術祭参加合同茶会	泰勝寺跡
	11月16日（日）	古稀御祝茶会	国際交流会館
	12月７日（日）	慈善茶会	蓮政寺
2026年	２月８日（日）	支部利休忌茶会	蓮政寺
	３月８日（日）	阿蘇神社献茶式 （熊本地震10年復興茶会）	阿蘇神社

※茶券がお入用の方は支部までお申し込みください　TEL070-2902-2347　楫 喜久子まで

2025年度　月釜予定

期日		組	氏名	会場
2025年	５月11日（日）	6	稲生　和美	白川公園茶室
	11月30日（日）	3	髙木　三鈴	白川公園茶室

※空いている月への申し込みをお待ちしております

表千家同門会熊本県支部設立六十周年
表千家熊本県青年部設立四十周年　献茶式・記念茶会

とき　令和六年十一月十六日(土)
十七日(日)

記念献茶式は猶有斎宗匠のご奉仕により執り行われました。薄茶席では追菓子として薏苡仁糖(よくいにんとう)が出され、お客様は珍しい趣向に喜んでおられました。

青年部席入口には、肥後六花の肥後菊が仕立てられ、青年部が茶摘をした「熊青(ゆうせい)の翠」（星野園詰）の一服が出されました。

お礼

支部行事の折に、能登半島地震への募金箱を設置しました。お陰様で四二万八七五四円の義援金が集まり、本部に送りました。七月五日付けでお礼状をいただきました。

御協力ありがとうございました。

祝賀会

熊本ホテルキャッスル

献茶式

藤崎八旛宮

濃茶席

白川公園茶室海月庵

薄茶席

熊本市国際交流会館広間

青年部席

熊本市国際交流会館ホール

点心席

熊本ホテルキャッスル

二〇二六年（令和八年）の毫寿表彰申請

京都での「毫寿お祝いの会」に出席いただける方

・昭和二十五年のお生まれ（数え年七十七歳）で、同門会に継続して二十年以上在籍（平成十八年以前に入会）の方

該当者は、『同門』誌　七月号（予定）に詳細を掲載いたしますのでご確認の上ハガキで本部にお申し込みください。

毫寿表彰申請書は秋頃の発送予定です。

＊毫寿を超えて同門会在籍二十年に達した方もお申し込みください。二〇二六年の支部総会で表彰されます。

●届出先

〒602－0072
京都市上京区寺之内通堀川東入百々町五三六番地
表千家同門会
本部事務局「毫寿表彰」係

二〇二六年度の古稀御祝茶会招待者申込

・同門会員で昭和三十二年生まれの方あるいはその前後の方、すでに古稀を迎えられた方

・同門会に十年以上在籍の方

該当者は二〇二五年十二月三十一日までにハガキで熊本県支部事務所までお申し込みください。

●届出先

〒860－0046
熊本市西区横手四－二一－五〇
（楫喜久子方）
表千家同門会熊本県支部
支部連絡先
070－2902－2347

古稀御祝申し込み書

一、会員番号
二、氏名
三、生年月日
四、住所
五、電話番号
六、同門会入会日

（ハガキ裏面）

同門会からのお知らせ

表千家同門会　入会申込について

表千家同門会への入会申込には、次の条件を満たして、お申込みください。

○条件

・不審菴に「入門」し、入門の許状が手もとにあること

・先生（会員）のご紹介があること

申込書がお手もとにない場合は、支部事務所または本部事務局にご請求ください。

再入会について

表千家同門会は、一旦退会された方でも、再度ご入会いただけます。

○お申出方法

・郵便ハガキに、「再入会希望」と明記し、記入事項をご記入の上、**本部事務局**までお申し出ください。

○記入事項

・支部、会員番号（在籍時のもの）

・氏名

・住所

・電話番号

住所・氏名変更の届出について

ハガキに「住所・氏名変更届」と明記し、左記の変更内容を速やかに**本部事務局**までお知らせください。

●記入事項

・所属支部および会員番号

・氏名（フリガナを必ずご記入ください）

・旧氏名（氏名に変更がある場合のみ）

・住所（郵便番号からご記入ください）

・電話番号

・所属支部の変更（「あり」または「なし」をご記入ください）

・転入先支部（所属支部を変更する場合のみ）

●お申出・お問合せ先

〒602－0072
京都市上京区寺之内通堀川東入百々町五三六番地
表千家同門会　同門会会員課
TEL　075－431－3283

訃報のお知らせ

高原ノリ子様
中村　康子様

心からご冥福をお祈りいたします。